

「中央区男女共同参画行動計画2023」指標に関する進捗状況（令和6年度実績）

資料2

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
基本目標1 人権が尊重され、多様な生き方を認め合う社会の形成									
課題1 男女平等の意識づくり	「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に《反対》と答えた人の割合	○	57.9% (令和3年)	—	—				59.8%以上 (令和8年)
			【取組状況】 子育て世代の父親を対象に、家庭への参画促進と交流機会の提供を目的とした講座を3回開催した（延べ定員36人、延べ参加者17人）。また、女性の再就職を支援する講座を全8回開催し、応募書類の書き方、面接対策、パソコンスキル、採用に役立つ資格やスキルについてなど幅広く取り扱い、再就職を望む女性を支援した（延べ定員210人、延べ参加者33人）。						
	「社会全体における男女の地位の平等感」で「平等」と答えた人の割合	○	14.2% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 男女共同参画ニュース「Bouquet(ブーケ)」計2号で、新聞折込(82,400部)に加え、区内公共施設、金融機関等で配布し、合計88,200部発行した。また、男女平等センターが実施する講座等各種事業の情報は、区のおしらせに加えて、ホームページや区公式SNSからも発信した。 (参考)中央区政世論調査 令和5年度20.5% 令和6年度18.5%						
課題2 子どもの個性や能力を育む学校教育の充実	「教育の場における男女の地位の平等感」における「平等になっている」と答えた人の割合	○	58.2% (令和3年)	—	—				61.2%以上 (令和8年)
			【取組状況】 社会科、家庭科、道徳科において、学習指導要領に基づき指導した。また、全教育活動を通して実施する人権教育においても、人権課題の一つとして、教科指導と関連付けて指導した。また、教職員研修においては、経験年数に応じた研修を実施し、人権課題について理解を深め、研修内容を各学校全体で共有した。 (参考)中央区政世論調査 令和5年度66.1% 令和6年度62.2%						
課題3 男女の生涯にわたる健康支援	がん検診の受診率		子宮がん 24.1% 乳がん 23.2% 肺がん 17.7% (令和3年度)	22.0% 21.1% 16.9% (令和5年度)	22.0% 20.7% 16.5% (令和6年度)				上げる (令和9年度)
			【取組状況】 受診券を個別に発送するほか、区のおしらせ、公式SNS、区内掲示板や医療機関へのポスター掲示、区施設及び近隣郵便局へのチラシ設置、「健康福祉まつり」でのチラシ配布など検診事業の周知を行った。また、検診期間を延長するとともに、子宮がん・乳がん検診未受診者に勧奨はがきを送付した。						
	65歳健康寿命 (要支援1以上)		女性 82.75歳 男性 81.44歳 (令和2年)	82.74歳 81.60歳 (令和4年)	82.75歳 81.73歳 (令和5年)				上げる (令和7年)
			【取組状況】 区民が健康づくりを継続的に取り組むことができる環境を整備するため、令和6年9月から中央区健康アプリ「ちゅうおうヘルス&ワーク」を開始し、生活習慣病の予防につなげている。高齢者健康診査の受診者に対して、医療・健診・介護データを活用して、栄養・口腔・身体フレイル及び生活習慣病重症化のリスクが高い方に、保健師、管理栄養士・歯科衛生士が個別訪問等による健康相談・指導を223件実施した。						

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
課題4 ひとり親家庭や 単身世帯などへの支援	ひとり親家庭・女性・家庭相談		576件 (令和3年度)	688件 (令和5年度)	730件 (令和6年度)				継続する (令和9年度)
			【取組状況】 ひとり親家庭相談では、ひとり親家庭の自立に必要な相談や助言・指導を行った（相談件数512件）。女性相談では、保護を要する女性へ状況に応じた相談及び指導を行い、必要に応じて東京都女性相談支援センターに一時保護を依頼するなど適切な支援を行った（相談件数175件）。家庭相談では、家庭における人間関係などの諸問題について相談に応じた（相談件数43件）。						
課題5 多様な性を認め 合う社会に向けた理解促進と支援	「SOGI」の言葉の認知度で「言葉の意味まで知っていた」の割合	○	15.5% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 男女共同参画講座のうち1回を「柔の道で考えた　オリンピックが語るスポーツとジェンダー」と題し、スポーツ界におけるジェンダー問題について取り上げた（定員30人、参加者48人）。若年層の参加者が多く、ジェンダー平等と性の多様性の尊重に対する意識啓発や理解促進に繋がった。						
基本目標2　女性活躍の推進[中央区女性活躍推進計画]									
課題1 働く場における女性の活躍推進	「職場における男女の地位の平等感」で「平等になっている」の割合	○	27.4% (令和3年)	—	—				30.7%以上 (令和8年)
			【取組状況】 理系を目指す女子学生を主な対象とする男女共同参画講座を開催したほか、男女共同参画ニュース「Bouquet(ブーケ)」96号(44,100部発行)の特集として、サイエンスエンターテイナーである五十嵐美樹氏のインタビューを取り上げることで、無意識の思い込みの解消に向けた啓発を行った。 (参考)中央区政世論調査　令和5年度35.6%　令和6年度33.9%						
	女性活躍推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定・公表している区内事業所数		970件 (令和4年10月)	1,261件 (令和6年10月)	1,301件 (令和7年4月)				増やす (令和9年)
課題2 女性の就労支援	女性が働くことに対する考えで、「子どもの有無にかかわらず、働く方がよい」の割合	○	56.0% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 男女共同参画講座では男性の育児休業や育児休業復帰をテーマとした講座を、育児休業から復帰前後の方及びそのパートナー等を対象に開催した。男性育休についての疑問や迷いを解消することで、女性の育児負担軽減に繋がる内容となった（定員30人、参加者8人）。また育休復帰講座では、育休復帰前後の不安感を軽減することで、就労を支援した。（定員30人、参加者13人）。						
	就労支援講座の参加率 (延べ参加人数/延べ定員)		32.7% (令和3年度)	64.9% (令和5年度)	74.2% (令和5年度)				60.0% (令和9年度)
【取組状況】 再就職支援講座を8回開催し、仕事に必要なWord、Excelスキルをはじめ、面接でのアピール方法、就職に役立つ資格等について幅広く取り扱った（延べ定員210人、延べ参加者33人）。また、東京しごと財団と共催の子育て女性向けセミナーにおいては、個別相談や合同就職面接会を実施し、好評を得た。（延べ定員150人、延べ参加者234人）。									

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
課題3 ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた支援	「仕事とそれ以外の生活を同じように両立している」人の割合	○	21.1% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
	ワーク・ライフ・バランス推進企業認定数		【取組状況】 男女共同参画講座のうち3回は、仕事と育児や介護の両立、育児休業に関するテーマを取扱うことで意識啓発を行った（延べ定員80人、延べ参加者27人）。また、社会保険労務士等の専門家が両立支援や働きやすい職場づくり等アドバイスをを行う、ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザーを、事業所へ引き続き派遣した（4事業所）。						
課題4 子育てや介護に対する支援の充実	子育て交流サロン「あかちゃん天国」の延べ利用人数（乳幼児）		128,796人 (令和3年度)	147,373人 (令和5年度)	146,003人 (令和6年度)				151,701人 (令和6年度)
	区立特別養護老人ホームでの介護者教室・交流会の開催回数		【取組状況】 利用者は微減となったものの、子育てに関するさまざまな相談を受け、情報提供や助言をすることで、保護者や妊婦の方の不安感・負担感の解消を図っており、身近な相談場所としての役割を果たすことができた。						
課題5 生活の場への男性の参画促進	男性の家事・育児・介護に携わる1日当たりの時間（平日・休日）	○	平日 98.5分 休日 164.2分 (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
	区男性職員の育児休業取得率		【取組状況】 子育て世代の父親を対象に中央区イクメン講座を3回開催した（延べ定員36人、延べ参加者17人）。親子でできる簡単なエクササイズや片づけトレーニングを通じ、親子で講座に参加することで、父親の家事・育児への参画を促進した。男女共同参画講座のうち1回は男性の育児休業をテーマとして開催した（定員30人、参加者8人）。						
			25.0% (令和3年度)	62.5% (令和5年度)	71.4% (令和6年度)				50.0% (令和7年度まで)
			【取組状況】 配偶者の妊娠、出産等の申出があった場合は、意向確認シートを活用するなどして、育児休業等の取得の意向を確認した。さらに、男性が育児に関わることの意義を周知するため、子育てと仕事の両立にかかる情報提供や研修等を実施した。						

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
基本目標3 あらゆる暴力の根絶[中央区配偶者暴力対策基本計画]									
課題1 配偶者等からの暴力の防止と被害者支援	配偶者暴力防止法の認知度で「法律があることも、その内容も知っている」割合	○	23.7% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 女性に対する暴力をなくす運動期間（毎年11月12日～25日）を中心に、パネル展を開催し、DVに関する周知啓発を行った。令和6年度からは新たに晴海特別出張所でのパネル展示を開始した。						
	DV被害を受けた経験のある人のうち、誰にも相談していない人の割合	○	50.6% (令和3年)	—	—				減らす (令和8年)
			【取組状況】 被害の潜在化防止と被害者の早期発見のため、ブーケ21女性相談及び男性電話相談の啓発カードを配布し、相談窓口を周知した。また、SNS相談「ココロ晴れる家」の相談受付を開始した。区内の児童・生徒向けにカードの配布、区内施設でしおり型カードの配布、LINE友だち追加広告等周知活動に注力したことで、新たな相談の受け皿となった。						
課題2 セクシュアル・ハラスメントなどの防止	デートDVの言葉の認知度で「意味を知っている」と答えた人の割合	○	24.0% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 男女共同参画講座のうち1回を「性暴力の傍観者にならないためにわたしたちができること」と題し、配偶者やパートナーからの性暴力防止に対する啓発を行った（定員30人、参加者11人）。						
課題3 性犯罪・性暴力の防止と被害者支援	ハラスメント行為の防止に向けたセミナーなどの参加率 (延べ参加人数/延べ定員)		65.0% (令和3年度)	74.3% (令和5年度)	79.0% (令和6年度)				75.0% (令和9年度)
			【取組状況】 ワーク・ライフ・バランスセミナーのうち1回でハラスメントの現状や未然に防止するためのアプローチを学んだ（定員100人、参加者79人、参加率79.0%）。また、受講者のアンケートでは、大変満足・満足と答えた人の割合が87.9%であり、参加者のハラスメント知識向上に貢献した。						
	性犯罪・性暴力の防止に向けたセミナーなどの参加率 (延べ参加人数/延べ定員)		30.0% (令和2年度)	56.6% (令和5年度)	36.7% (令和6年度)				60.0% (令和9年度)
			【取組状況】 男女共同参画講座のうち1回を「性暴力の傍観者にならないためにわたしたちができること」と題し開催した（定員30人、参加者11人、参加率36.7%）。性暴力はなぜ起きるのか、その背景にある暴力の構造や実態を学び、社会全体の問題としてひとり一人が当事者意識をもてるようなきっかけをつくることができた。						

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
基本目標4 さまざまな場への男女共同参画の促進									
課題1 政策・方針決定過程における女性の参画促進	審議会などにおける女性委員の割合		27.1% (令和4年度)	29.0% (令和5年度)	31.8% (令和6年度)				30.0%以上 (令和9年度)
			【取組状況】 中央区男女の平等及び共同参画による社会づくりに関する基本条例に則り、附属機関等の委員の委嘱等に当たり、男女双方の参画機会を確保するよう努めた結果、女性委員の割合は目標値を超える31.8%となった。						
	庁内の管理監督職（係長級以上）に占める女性の割合		36.3% 部長級 17.6% 課長級 16.1% 係長級 40.7% (令和4年4月)	37.8% 11.8% 19.6% 42.1% (令和5年4月)	38.4% 21.1% 16.1% 43.0% (令和6年4月)				上げる 部長級 15.0%以上 課長級 20.0%以上 係長級 45.0%以上 (令和6年度まで)
			【取組状況】 管理監督職（係長級以上）に占める女性の割合は前年度から0.6ポイント上昇した。 引き続き、人事評価制度における面談時など、あらゆる機会を利用して昇任の働きかけを行うとともに、積極的に昇任選考の受験を勧奨していく。						
課題2 地域活動における男女共同参画の促進	地域活動へ参加している人の割合	○	48.8% (令和3年)	—	—				増やす (令和8年)
			【取組状況】 区民が地域活動に参画できるよう、活動の場を提供するだけでなく、講師の派遣や謝礼金の助成によって引き続き支援した。また、事業協力スタッフや地域活動リーダーを養成するための研修会や講座を通じて地域活動の担い手を育成し、地域活動の促進を図った。						
課題3 男女共同参画の視点を取り入れた防災体制の推進	防災拠点の運営にあたり、女性の意見を反映させている防災拠点の割合		100% (令和4年度)	100% (令和5年度)	100% (令和6年度)				100% (令和9年度)
			【取組状況】 発災時に防災拠点に避難所を開設することとなった場合に使用する「防災拠点活動マニュアル」では、女性用トイレ、更衣室に、昼夜を問わず安心して使用できるよう照明を付けることや、授乳室や物干し場が外から見えないようにする等、女性に配慮した避難所の環境整備について記載している。また、中学生が参加した防災拠点訓練におけるアンケート結果を踏まえ、全ての防災拠点で「トイレ用擬音装置」を配備した。						

取り組むべき課題	指標	区民調査	現状値 (時点)	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	目標値 (期限)
基本目標5 男女共同参画社会の実現に向けた人材育成と拠点施設の活用									
課題1 地域の活動で中心的な役割を果たす人材、グループ・団体の育成	男女共同参画リーダー研修の参加率 (延べ参加人数/延べ定員)		60.0% (令和3年度)	40.0% (令和5年度)	45.0% (令和6年度)				70.0% (令和9年度)
			【取組状況】 中央区女性ネットワークとの共催により、日帰りバス研修を実施した(定員40人、参加者18人、参加率45.0%)。研修では、横浜市男女共同参画センター3館(南太田、戸塚、あざみ野)の施設を見学し、施設職員による講義を聞くことで、男女共同参画や横浜の女性史について学んだ。						
課題2 誰もが利用しやすい男女共同参画推進拠点施設の活用	男女平等センター「ブーケ21」の認知度	○	52.4% (令和3年)	—	—				上げる (令和8年)
			【取組状況】 ブーケ祭りでは2日間で24団体が展示やパフォーマンスで参加し、前年度を上回る1,070人の来場者があった。来場者のアンケートでは約3割が施設について「知っていたが、初めて利用した」「まったく知らなかった」と回答し、施設の認知度向上に大いに繋がった。						
	男女平等センター「ブーケ21」登録団体数		67団体 (令和4年4月)	63団体 (令和6年4月)	66団体 (令和7年4月)				100団体 (令和9年度)
			【取組状況】 ブーケ祭りでは新たな団体が参加し、展示を行ったことで更に地域交流の輪が広まった。また、令和6年度は新規登録団体が3件あり、全体の登録件数が64団体となった。						
	男女平等センター「ブーケ21」の利用率		27.7% (令和3年度)	38.0% (令和5年度)	40.4% (令和6年度)				50.0% (令和9年度)
			【取組状況】 令和6年10月から施設使用料のキャッシュレス決済を導入し、利用者の利便性向上及び利用促進を図った。また、性別を問わず誰でも設立できる新たな団体区分の創設を検討し、利用者懇談会及び利用者意見交換会において利用者の意見聴取を行った。						